令和８年度　東京医科大学医学部医学科　第５学年シラバス

令和８年４月１日　第１版

●横断的領域科目

科目名	形式	前期・後期	単位	頁
行動科学・患者学Ⅱ	講義	前・後	0.5	1

●臨床医学系科目

科目名	形式	前期・後期	単位	頁
医療安全Ⅱ	講義	前・後	0.5	5
緩和医療Ⅱ・診療録の記載（緩和医療Ⅱ） （診療録の記載）	講義	前・後	0.5	10 14

●臨床実習

科目名	形式	前期・後期	単位	頁
臨床医学Ⅲ				18
精神・神経コース	実習	前・後	4	
代謝・免疫・内分泌コース	実習	前・後	2	
血液・凝固コース	実習	前・後	2	
感覚器コース	実習	前・後	2	
呼吸器系コース	実習	前・後	3	
循環器コース	実習	前・後	3	
消化器コース	実習	前・後	4	
腎・泌尿器コース	実習	前・後	2	
運動器コース	実習	前・後	2	
皮膚コース	実習	前・後	2	
女性診療コース	実習	前・後	3	
小児科コース	実習	前・後	2	
全身管理コース	実習	前・後	2	
放射線科コース	実習	前・後	1	
地域中核医療コース	実習	前・後	4	
地域診療コース	実習	前・後	2	
臨床医学Ⅳ	実習	前・後	28	22

開講科目名／Course	行動科学・患者学II	
時間割コード ／Course Code	11151300	
ナンバリングコード／Numbering Code	13506	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	土／Sat 1, 土／Sat 2	
開講区分／semester offered	前期／First Semester	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	5	
主担当教員／Main Instructor	原田　芳巳	
科目区分／Course Group	横断領域科目　／横断領域科目	
教室／Classroom	第一研究・教育棟第１講堂／第一研究・教育棟第１講堂	
必修/選択 ／Required/Elective	必修	
授業形態 ／class format	講義	
科目責任者 ／Course Coordinator	原田 芳巳	
科目担当者 ／Course Instructor	准教授・原田芳巳・（医学・看護学教育推進センター）、教授・倉田 誠・(人間学)、准教授・石川伸晃・(人間学))、准教授・井上弘樹・(人間学)、非常勤講師・山口佳子・（医学看護学教育推進センター）	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)	該当する	
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active	□該当しない ■該当する　具体的な方法（　　グループディスカッション　　）	
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	現代の医療者には、患者の思いや医師-患者関係のあり方を文化的・社会的文脈のなかで捉え省察する姿勢と能力が求められている。 本科目では、将来の臨床実践に行動科学・社会科学の知見を活かすことができるよう、具体的な症例の検討を通して健康・病い・医療に関する文化人類学的・社会学的な視点や方法論への理解を深め、「患者とともに歩む医療人となる」ための資質を養う。また、臨床倫理カンファレンス形式による症例検討を行うことで、臨床における問題やジレンマに気づき、ともに考える経験を通して医療者としてのプロフェッショナリズムを学ぶ。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	1．医療人類学や医療社会学等の行動科学・社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	2・③・A
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	2．健康・病い・医療をめぐる文化的な多様性を踏まえたうえで、実際の症例を検討することが出 来る。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	4-1・③・A
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	3．臨床倫理カンファレンスについて、方法論を含めて概説できる。

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	4-2・⑩・A
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning Objectives(10)	教育到達目標レベルA，B，Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない 領域/項目
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	1-1・①②・D，1-2・①②・D，3・①④・D，5・全て・D，6・全て・D，　9・全て・D
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	

	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	実際の臨床事例やユネスコ生命倫理学講座ケースブック事例を利用し、各グループで臨床倫理カンファレンスを行い、発表する。	
ICT活用 ／ICT Utilization	特に予定していない。	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	30分
	予習内容 ／Preparation content	授業予定表キーワードから自主的学習を望む。
	復習時間 ／Review time	30分
	復習内容 ／Review content	カンファレンスの振り返りが望ましい。
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	●授業評価 授業態度30%、グループディスカッション時のピア評価50%、レポート20%
	最終評価点 ／Final score	授業態度+ピア評価点+レポート点
	合格点 ／passing score	60点を合格点とする。
	筆記試験の形式 ／Written exam format	
	再試験・対象者 ／Re-examination and	最終評価点60点未満の者
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	年度末に1回
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	全授業範囲
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	原則として本試験と同等のレポート課題
	再試験・方法 ／Re-examination and method	レポート提出
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	レポートに対する質問はオフィスアワーやe自主自学で回答する。
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	グループディスカッションを行うので遅刻しないこと。	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	原田　芳巳 適宜 yharada@tokyo-med.ac.jp	
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	Albert R. Jonsen ら「臨床倫理学」第5版　監訳　赤林　朗ほか、新興医学出版社	

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
6月20日（土）1限　SGD	事例の臨床倫理カンファレンス	○臨床倫理カンファレンスを通してプロフェッショナリズムを理解する。 臨床倫理 医療人類学 プロフェッショナリズム	原田 芳巳、倉田 誠、石川伸晃、井上弘樹、山口 佳子
6月20日（土）2限　SGD	事例の臨床倫理カンファレンス	○臨床倫理カンファレンスを通してプロフェッショナリズムを理解する。 臨床倫理 医療人類学 プロフェッショナリズム	原田 芳巳、倉田 誠、石川伸晃、井上弘樹、山口 佳子
7月4日（土）1限　SGD	事例の臨床倫理カンファレンス	○臨床倫理カンファレンスを通してプロフェッショナリズムを理解する。 臨床倫理 医療人類学 プロフェッショナリズム	原田 芳巳、倉田 誠、石川伸晃、井上弘樹、山口 佳子
7月4日（土）2限　SGD	事例の臨床倫理カンファレンス	○臨床倫理カンファレンスを通してプロフェッショナリズムを理解する。 臨床倫理 医療人類学 プロフェッショナリズム	原田 芳巳、倉田 誠、石川伸晃、井上弘樹、山口 佳子

開講科目名／Course	医療安全II	
時間割コード ／Course Code	11151200	
ナンバリングコード／Numbering Code	13505	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	土／Sat 1, 土／Sat 2	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	5	
主担当教員／Main Instructor	浦松　雅史	
科目区分／Course Group	横断領域科目　／横断領域科目	
教室／Classroom	第一研究・教育棟第１講堂，第一研究・教育棟第２講堂／第一研究・教育棟第１講堂，第一研究・教育棟第２講堂	
必修/選択 ／Required/Elective	必修	
授業形態 ／class format	講義	
科目責任者 ／Course Coordinator	浦松 雅史	
科目担当者 ／Course Instructor	教授・三島 史朗・(医療の質・安全管理学)、教授・浦松 雅史・(医療の質・安全管理学)、講師・高橋 恵・(医療の質・安全管理学)、助教・大戸 朋子・(医療の質・安全管理学)	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active	□該当しない ■該当する　具体的な方法（問題演習）	
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	医師として医療に従事した際、自身が当事者となりうる医療事故にはどのようなものがあり、その原因はなぜかを知ることで、事故を防ぐ能力を身に着けることを目標とする。また、万一事故の当事者となってしまった場合にどのような対応が求められるかを学ぶ。事故の防止と対応についてはいずれもチームで取り組む必要があることから、チーム医療についても理解し、医師として求められているふるまいを身に着ける。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	医師が医療事故の当事者になる背景要因を説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	4-3・①・A
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	医療事故後に病院および主治医等が行うべき事項を説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	4-3・①・A
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	患者からの相談の原因とそれに対する、あるいはそれを防ぐための医師としての行動について説明 できる。

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	4-3・①・A、1-1・すべて・A、1-2・すべて・A、3・すべて・A
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	良好なチームパフォーマンスを発揮するために必要な事項を説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	4-3・①・A、1-1・すべて・A、1-2・すべて・A、3・すべて・A、7・すべて・A
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning Objectives(10)	教育到達目標レベルA，B，Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない 領域/項目
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	5・全て・D
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	

	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods		
ICT活用 ／ICT Utilization	ｅ自主自学を使い授業中テストを行う.	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	10分程度
	予習内容 ／Preparation content	配布予定のハンドアウトに目を通す
	復習時間 ／Review time	10分程度、ただし実習のレポートについてはこの限りではない。
	復習内容 ／Review content	ハンドアウトや実習の記録・記憶を整理する。
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	●授業評価 授業中テスト（80%）及び実習に関するレポート（20%）で評価する ●実習評価
	最終評価点 ／Final score	2/3以上出席し、かつ、実習に関するレポートを提出した者に対して評価を行う．授業中テスト及 びレポートで評価する.
	合格点 ／passing score	60点を合格点とする。
	筆記試験の形式 ／Written exam format	オンデマンド講義については、授業中にｅ自主自学を用いて行う．受講者は各自端末を準備して授 業に臨むこと．実習のレポートについては、Wordファイルで提出する。
	再試験・対象者 ／Re-examination and	最終評価点が60点未満の者
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	全ての講義終了後1回
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	授業範囲全て
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	特に規定しない。
	再試験・方法 ／Re-examination and method	レポート提出
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	レポートに対する質問はオフィスアワーやe自主自学で回答する。
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	他人の学習を妨げる行為は慎んでいただきたい.	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	三島史朗・浦松雅史／医療の質・安全管理学分野 医療の質・安全管理学分野（担当秘書：中西） 内線5766 mana9@mac.com、masura@tokyo-med.ac.jp	

教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	より安全な医療をめざして：リアルワールドの医療安全対策、Charles Vincent著、三木保監修、浦松雅史・藤澤由和監訳、へるす出版（2020年）
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
9月5日・9月19日・10月3日（土）1・2限　実習	医療事故の報道や医師のアンプロフェッショナリズム行動を分析することを通じ、医師としての視野を広げる。	事故や苦情に対する医師としてあるべき対応を説明できる。 医療事故、患者相談、プロフェッショナリズム	教員全員
9月5日・9月19日・10月3日（土）1・2限　講義	医療事故の原因分析と再発防止	○医師が医療事故の当事者になる背景要因を説明できる。 ヒューマンファクターズ、根本原因分析	高橋 恵
9月5日・9月19日・10月3日（土）1・2限　講義	医師の法的責任	○医師の法的責任を説明できる。 過失、損害、因果関係、違法性	浦松 雅史
9月5日・9月19日・10月3日（土）1・2限　講義	チームパフォーマンス	○良好なチームパフォーマンスを発揮するために必要な事項を説明できる。 チームワーク、リーダーシップ、ノンテクニカルスキル	大戸 朋子
9月5日・9月19日・10月3日（土）1・2限　講義	医療事故対応	○医療事故後に病院および主治医等が行うべき事項を説明できる。 情報開示、組織的対応	浦松 雅史

開講科目名／Course	緩和医療Ⅱ・診療録の記載（緩和医療Ⅱ）	
時間割コード ／Course Code	11151800	
ナンバリングコード／Numbering Code		
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	土／Sat 1, 土／Sat 2	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.0	
学年／Year	5	
主担当教員／Main Instructor	河手　敬彦	
科目区分／Course Group	横断領域科目　／横断領域科目	
教室／Classroom	第一研究・教育棟第１講堂／第一研究・教育棟第１講堂	
必修/選択 ／Required/Elective	必修	
授業形態 ／class format	講義	
科目責任者 ／Course Coordinator	河手 敬彦	
科目担当者 ／Course Instructor	講師・河手敬彦・(緩和医療部)、助教・岩田愛雄・(緩和医療部)、兼任講師・遠藤光史・(緩和医療部)	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)	該当する	
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active	■該当しない □該当する　具体的な方法（　　）	
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	１．がん医療の中で緩和医療・緩和ケアの役割を説明できる。 2．がん患者の症状緩和について説明できる。 3．患者や家族の希望を支える医療やケアについて説明できる。 緩和医療の中での実際の症例を提示しながら解説する。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	がん患者の療養における緩和医療・緩和ケアの役割を説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	4-2・⑩・A
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	全人的苦痛（トータルペイン）について説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	4-2・⑩・A
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	がん疼痛の評価と治療方針について説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	4-2・⑨・A

	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	アドバンス・ケア・プランニングについて説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	4-2・⑩・A
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	人生の最終段階における医療や療養場所について説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	4-2・⑩・A
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning Objectives(10)	教育到達目標レベルA，B，Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない 領域/項目
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	1-1・①②・D，1-2・①②・D，3・①④・D，5・全て・D，6・全て・D， 9・全て・D
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	

	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	パワーポイントを使った授業を行い、その内容はハンドアウトとして事前に配付する。授業中に小テストをするなどして、理解度を確認しながら授業を進める。	
ICT活用 ／ICT Utilization	e自主自学を利用して講義資料の配付や確認テスト、レポートの提出など実施する。	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	30分
	予習内容 ／Preparation content	緩和医療とはどういうものか、がん患者が抱える問題などについてインターネットその他の文献等 で調べること。
	復習時間 ／Review time	30分
	復習内容 ／Review content	講義内容全般について再度資料を見直すこと。
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	確認テスト(40%)、レポート(60%)
	最終評価点 ／Final score	確認テスト40点＋レポート点60点
	合格点 ／passing score	60 点以上を合格点とする。
	筆記試験の形式 ／Written exam format	授業中に行う確認テストとレポート
	再試験・対象者 ／Re-examination and	最終評価点が60点未満の者
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	再試験は年度末（すべての講義終了後）に1回とする。
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	授業内容すべて
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	本試験と同等以上
	再試験・方法 ／Re-examination and method	レポート提出
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	必要な学生にはコメントでフィードバック レポート全体に対する講評の形でフィードバック
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	提出物の期限を守ること。講義中に行う小テストに解答し、終了後に提出すること。	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	基本的にメールでの質問を受け付けます。 河手敬彦(緩和医療部) kawa-t@tokyo-med.ac.jp 岩田愛雄（緩和医療部）skyfieldworks@ybb.ne.jp 遠藤光史　兼任講師（緩和医療部）endelogy@tokyo-med.ac.jp	
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	臨床緩和ケア[第3版]、大学病院の緩和ケアを考える会編集　青海出版	
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	日本緩和医療学会HP(http://www.jspm.ne.jp/)	

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
5月16日（土）1限　講義	日本におけるがん医療、がん医療における緩和医療の役割	がん医療における緩和医療の役割を説明できる 日本におけるがん対策について説明できる 緩和医療・緩和ケア 緩和ケアの定義(WHO) がん対策基本法 がん対策推進基本計画	河手敬彦
5月16日（土）2限　講義	アドバンス・ケア・プランニング、緩和ケア病棟、在宅医療	アドバンス・ケア・プランニングについて説明できる 人生の最終段階における医療や療養場所について説明できる アドバンス・ケア・プランニング ホスピス 在宅医療	遠藤光史
6月6日（土）1限　講義	全人的苦痛（トータルペイン）、がん患者や家族とのコミュニケーション	がんに伴う症状の評価と対策を説明できる 悪い知らせの伝え方を説明できる 全人的苦痛 悪い知らせ コミュニケーション	岩田愛雄
6月6日（土）2限　講義	がん疼痛の種類 鎮痛薬の種類と特徴	がん患者の痛みについて説明できる 鎮痛薬の効果と副作用について説明できる 医療用麻薬の種類と特徴について説明できる がんに伴う痛み 非オピオイド鎮痛薬 オピオイド鎮痛薬 鎮痛補助薬	河手敬彦

開講科目名／Course	緩和医療II・診療録の記載（診療録の記載）	
時間割コード ／Course Code	11151900	
ナンバリングコード／Numbering Code		
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	土／Sat 1, 土／Sat 2	
開講区分／semester offered	前期／First Semester	
単位数／Credits	0.0	
学年／Year	5	
主担当教員／Main Instructor	畑中　志郎	
科目区分／Course Group	横断領域科目　／横断領域科目	
教室／Classroom	第一研究・教育棟第１講堂／第一研究・教育棟第１講堂	
必修/選択 ／Required/Elective	必修	
授業形態 ／class format	講義	
科目責任者 ／Course Coordinator	畑中 志郎	
科目担当者 ／Course Instructor	助教・畑中志郎・(高齢総合医学)	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)	該当する	
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active	□該当しない ■該当する　具体的な方法（カルテ記載実習）	
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	模擬患者の医療面接を通じて得た患者情報から、POSに則ったカルテ記載を実施できる。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	1．SOAPでカルテを記載できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	4-2・⑧・A
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	2．プロブレム・リストを記載できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	4-2・⑦・A
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	3．プロブレム・リストに応じた臨床推論を記載できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	4-2・⑨・A
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning Objectives(10)	教育到達目標レベルA，B，Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない 領域/項目
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	1-1・①②・D，1-2・①②・D，3・①④・D，5・全て・D，6・全て・D， 9・全て・D
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	

授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	模擬患者から患者情報を的確に収集し、プロブレム・リストを作成した後、プロブレム・リストに応じた鑑別疾患を列挙し、必要な検査を計画してカルテに記載する。	
ICT活用 ／ICT Utilization	電子カルテ利用について解説（活用）する。	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	30分
	予習内容 ／Preparation content	4学年のときのカルテ記載の授業を見直しておく。
	復習時間 ／Review time	30分
	復習内容 ／Review content	クリニカルクラークシップで実践する。
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	●授業評価 授業態度50%、レポート50%
	最終評価点 ／Final score	授業態度+レポート点
	合格点 ／passing score	60点を合格点とする。
	筆記試験の形式 ／Written exam format	行わない。
	再試験・対象者 ／Re-examination and	最終評価点が60点未満の者、レポートを期日までに提出しなかった者。
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	年度末に1回
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	全授業範囲
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	授業に臨んでいれば平易なもの
	再試験・方法 ／Re-examination and method	レポート
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	提出されたレポートを評価し返却する。
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	クリニカルクラークシップでの実践を常に頭に置くこと。	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	畑中志郎（高齢総合医学） 金曜日　14：00-17：00／　教育研究棟7階 63563（IP）2151（内線） shiro-h@tokyo-med.ac.jp	
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)		
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	「型」が身につくカルテの書き方、佐藤健太　著、医学書院	

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
4月4日（土）1限　講義	診療録の記載	○POSで実際にカルテを記載できる。 1　POS,POMR 2　SOAP	畑中志郎
4月4日（土）2限　講義	診療録の記載	○POSで実際にカルテを記載できる。 1　POS,POMR 2　SOAP	畑中志郎

開講科目名／Course	臨床医学III	
時間割コード ／Course Code	11195100	
ナンバリングコード／Numbering Code	14903	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	集中／Intensive	
単位数／Credits	0.0	
学年／Year	4,5	
主担当教員／Main Instructor	伊藤　正裕	
科目区分／Course Group	臨床実習　／臨床実習	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	必修	
授業形態 ／class format	講義	
科目責任者 ／Course Coordinator	伊藤 正裕	
科目担当者 ／Course Instructor		
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)	該当する（本学附属病院等における医師としての実務経験を有する教員が、その臨床経験や専門分野を活かし授業を行う）	
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active	□該当しない ■該当する　具体的な方法（診療参加型臨床実習）	
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	臨床医学III(Clinical Clerkship I)は、第4学年1月から第5学年11月までの41週にわたり、16のコースをローテートする臨床実習である。詳細は、別冊「Clinical Clerkship I 2025ー2026」を参照のこと。内容は各診療科の内容に加え、どの診療科でも「基本的診療能力の修得」を目指す。このため、1）受け持ち患者の診察：医療面接、身体診察、診療録記載、プレゼンテーション。2）双方向型セミナー：授業とは異なるベッドサイドの視点からの双方向性のセミナー。3）身体診察OSCE,臨床推論OSCEと臨床推論ロールプレイ。4）医行為実習。評価は、診療現場のパフォーマンスに対して、知識、技能、態度の3要素を統合して判断する。レポートは必ずEBMに基づき作製すること、 e自主自学の臨床実習日誌に、実習で出来たこと、出来ないこと、今後の課題を中心とした内容を記載すること。指導医によるフィードバックから、この実習の到達目標に対しての達成度を自己評価することを期待している。 自己学修のコンテンツとして、「セレクト」動画を指定している。単なる国家試験の対策ではなく、実習で経験した内容の知識の裏付けとして補完的に活用すること、特に、基礎医学と臨床医学を統合して、「病態生理学」の視点から診療現場で考えることが出来ることを目標としている。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	1．医学生として相応しい身なり・態度で、他者に敬意を払って接することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	1-1・① ②・A
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	2．患者および家族の背景に配慮し、共感・敬意・思いやりをもって接することができる。

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	1-2・① ②・A
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	3．個人情報とプライバシーについて倫理的原則に基づいて行動できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	3・① ・A
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	4．科学的根拠に基づいた医療の知識と技術の基本を説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	4-1・①ー④ ・B
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	5．診療に必要な基本的事項を説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	4-2・①ー⑪ ・B
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	6．医療安全に必要な項目を説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	4-3・①ー④・B
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	7．的確な医療情報を収集し、活用することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	6・①ー④・B
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	8．多職種と協調したチーム医療の意義を理解し、実践できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	7・① ②・A
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	

	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	臨床医学IIIの詳細は、別冊「Clinical Clerkship I 2025ー2026」を参照のこと。	
ICT活用 ／ICT Utilization	別冊「Clinical Clerkship I 2025ー2026」を参照のこと。	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	別冊「Clinical Clerkship I 2025ー2026」を参照のこと。
	予習内容 ／Preparation content	別冊「Clinical Clerkship I 2025ー2026」を参照のこと。
	復習時間 ／Review time	別冊「Clinical Clerkship I 2025ー2026」を参照のこと。
	復習内容 ／Review content	別冊「Clinical Clerkship I 2025ー2026」を参照のこと。
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	実習評価：100% 実習の出席率が4/5以上の者が、最終評価の対象となる。
	最終評価点 ／Final score	
	合格点 ／passing score	各実習診療科（コース）60点を合格とする。
	筆記試験の形式 ／Written exam format	
	再試験・対象者 ／Re-examination and	不合格となった各実習診療科（コース）については再実習を行う。
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	
	再試験・方法 ／Re-examination and method	
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	課題等に対する質問はオフィスアワーやe自主自学で回答する。
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	詳細は、別冊「Clinical Clerkship I 2025ー2026」を参照のこと。	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	別冊「Clinical Clerkship I 2025ー2026」を参照のこと。	

教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	別冊「Clinical Clerkship Ⅰ 2025ー2026」を参照のこと。
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	別冊「Clinical Clerkship Ⅰ 2025ー2026」を参照のこと。

開講科目名／Course	臨床医学IV	
時間割コード ／Course Code	11192001	
ナンバリングコード／Numbering Code	14903	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	前期／First Semester	
単位数／Credits	28.0	
学年／Year	5,6	
主担当教員／Main Instructor	伊藤　正裕	
科目区分／Course Group	臨床実習　／臨床実習	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	必修	
授業形態 ／class format	実習	
科目責任者 ／Course Coordinator	伊藤 正裕	
科目担当者 ／Course Instructor		
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)	該当する（本学附属病院等における医師としての実務経験を有する教員が、その臨床経験や専門分野を活かし授業を行う）	
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active	□該当しない ■該当する　具体的な方法（診療参加型臨床実習）	
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	臨床医学IV(Clinical Clerkship II)では、学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを目的とした診療参加型臨床実習を行う。 詳細は、「第5・6学年「臨床医学IV」実習ガイド」および「第5・6学年のための診療参加型臨床実習 Handbook」を参照のこと。診療現場で、知識、技能、態度を学ぶことが目標である。I期からVII期まで、診療チームの一員として医療面接、身体診察、診療録記載、プレゼンテーションを行う。 多職種基礎技能実践コースでは基本的臨床手技や多職種連携、多職種協働やチーム医療を修得することを目的としたシミュレーション実習を行う。 感染症実践コースでは感染症の診断と対応する実践的な能力を習得することを目的としたシミュレーション実習を行う。 自己学修のコンテンツとして、「セレクト」動画を指定している。単なる国家試験の対策ではなく、実習で経験した内容の知識の裏付けとして補完的に活用すること、特に、基礎医学と臨床医学を統合して、「病態生理学」の視点から診療現場で考えることが出来ることを目標としている。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	1．医療面接におけるスキルを実践できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	4-2・①・A
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	2．患者の病歴聴取と記録の項目を挙げることができる。

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	4-2・②・A
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	3．主要な疾患の診察において、基礎医学・臨床医学の知識に基づく基本的な判断ができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	4-1・① ②・A
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	4．患者・家族への指示、指導内容を説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	4-1・③・A
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	5．基本的な全身の観察（バイタルサインを含む身体診察）ができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	4-2・④・A
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	6．基本的な臨床検査の適応や結果の解釈を説明できる。 7．基本的手技を指導の下に実施できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	4-2・⑤・A，4-2・⑥・A
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	8．基本的治療法とその適応を説明できる。 9．指導の下、担当患者の医療記録を記載し、問題点を抽出できる。 10．保険・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	4-2・⑦・A，4-2・⑧・A，4-2・⑨・A
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	9．指導の下、担当患者の医療記録を記載し、問題点を抽出できる。 10．保険・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	4-2・⑧・A，4-2・⑨・A
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	11．患者の呈する症状や身体所見、簡単な検査初見に基づいて病態を評価し、鑑別診断や検査計画 を提示できる。 12．2次3次救急疾患の病態に応じた診療ができ、応急処置を述べることができる。 13．診療の場で、ステューデントドクターとして相応しい態度・行動をとることができる。 14．医療プロフェショナリズムを理解し、行動で示すことができる。

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	4-2・⑩・A 4-2・⑪・A, 1・全て・A ３・全て・A
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning Objectives(10)	教育到達目標レベルA，B，Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない 領域/項目
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	4-1・④・D，4-2・③・D，4-3・全て・D，5・全て・D，6・全て・D，7・全て・D，8・全て・D， 9・全て・D，10・全て・D
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	第5学年1月から第6学年7月までの7か月、選択必修7コース（期）の診療参加型の臨床実習を行う。 詳細は、「第5～6学年「臨床医学IV」実習ガイド」および「第5・6学年のための診療参加型臨床実習 Handbook」を参照のこと。 多職種基礎技能実践コースでは医学科・看護学科合同で全4回のテーマについて実際の手技場面を想定したシミュレーション実習を行う。 感染症実践コースでは感染症に関連した全6回のテーマについて少人数でのOSCEとシミュレーションを活用した実習を行う。 学外病院実習中は、Microsoft Teams～などを用いて学内担当教員とweb面談を実施し、実習状況の把握とフィードバックを行う。	
ICT活用 ／ICT Utilization	CC-EPOCを活用し臨床推論（症候・病態）の記録、基本的臨床手技の記録を行う。	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	第5～6学年「臨床医学IV」実習ガイドを参照のこと。
	予習内容 ／Preparation content	第5～6学年「臨床医学IV」実習ガイドを参照のこと。
	復習時間 ／Review time	第5～6学年「臨床医学IV」実習ガイドを参照のこと。
	復習内容 ／Review content	第5～6学年「臨床医学IV」実習ガイドを参照のこと。

成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	●実習評価 100%、 多職種基礎技能実践コース・感染症実践コースについては実習中の知識、技能、態度および確認試 験で評価する。 診療参加型選択実習の評価は、診療現場のパフォーマンスに対して、知識、技能、態度の3要素を 統合して判断する。4週間の期ごとに、卒業時教育到達目標と関連した知識、技能、態度を含む全2 2項目の評価及び概略評価を実施する。項目評価は評価項目は、①プロフェショナリズム・コミュ ニケーション・多職種9項目、②診察技能、臨床推論13項目を含み、臨床実習評価用ルーブリック に基づいて評価する。また、概略評価は、1点臨床実習開始前レベル、2点臨床実習開始時レベル、 3点臨床実習中間レベル、4点臨床実習終了レベル、5点陳勝研修中間レベルのスケールで判定す る。 形成的評価：学生は予め実習の目標を提出し、指導医はCC EPOCを用いて形成的評価を行い、学生 はその実習中の進歩を確認できる。また、各期ごとの評価が低い場合[概略評価が不合格（1点また は2点）の場合、また評価項目での評価が低い場合]は、医学教育の担当教員が面談を行い、臨床実 習での課題についてのフィードバックを行う。 総括評価：1期から7期の期ごとの概略評価で不合格がある場合（1点または2点、7期の場合は3点） は、CCII合否判定委員会が、mini CEXなどの成績、学修成長曲線等を踏まえて最終判定を行う。 各期ともに出席率4/5以上の者が最終評価の対象となる。
	最終評価点 ／Final score	診療参加型臨床実習7コース（期）と多職種基礎技能実践コース・感染症実践コースを合わせた1 コース（期）の計8コース（期）について評価する。
	合格点 ／passing score	各コース（期）60点を合格とする。
	筆記試験の形式 ／Written exam format	
	再試験・対象者 ／Re-examination and	不合格となったコース（期）については再実習を行う。
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	
	再試験・方法 ／Re-examination and method	
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	課題等に対する質問はオフィスアワーやe自主自学で回答する。
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	第5～6学年「臨床医学IV」実習ガイドを参照のこと。	

オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	後藤理英子goto.rieko.3u@tokyo-med.ac.jp 山口佳子 yosyamag@tokyo-med.ac.jp（水曜午後・金曜午後） 三苫 博 mitoma@tokyo-med.ac.jp
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	